(廿二日夕刊)
磐城新聞
休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料　二行五十錢指定廿錢增
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社

運動も遂に空しく 官行製炭を實行 貝泊に軌道を敷設 驚ろいた濱三組合

石城郡貝泊村から石住村に通ずる林道開鑿工事はこの程完成し右林道全長約六マイルに對し東京營林局では明年度に於て局の直轄事業として軌道を敷設することになつた右計畫は官行製炭事業開始を前提としたものであることは明かな處であるがこの官行製炭事業實施に就ては曩に濱三郡木炭同業組合が民間事業を壓迫するものであるとして三郡選出代議士を動かして極力反對の陳情をしたのであるがそれに拘らずその事業を準めて居るので同組合では前途を頗る憂慮して居る右に關しては縣も同意して居るので縣の面目にも拘る問題であるが右に就き一關係者は語る

林道開鑿工事を進め軌條を敷設すると云ふ事は、誰れが見ても官行製炭を開始する前提であると云ふ事がうなづかれる又何れの處に於ても軌道敷設をして製炭事業を起さぬ處はない故に貝泊村方面の林道工事が進めらる限り製炭事業が開始されるものと見なければなるまい」云々

夏井に開く 公民講座 各種の講座

石城郡夏井村敎育會、石城郡方面共濟委員會主催に係る公民講座は來る二十六日から三月一日迄四日間午後七時半より九時半まで夏井村小學校に於て開催するが講師及科題は次の如くである

一、未定　平田榮祐
一、佛教の政道觀　宍戸正勝
一、村政に就て　根本莊
橘
一、農村敎育問題　草野金作
一、神道と團体　山名隆貞
一、公衆衛生　阿部瀧藏
一、農村經濟問題　鈴木積善

四倉町長は 新妻氏有力 近く町會召集

石城郡四つ倉町長後任問題は既報の如く現助役推薦派と四電社長新妻盛氏推薦派と町長留任派とが三つ巴となつて暗闘を生じて來たゝめ數回開催した決定町會も都度流會のやむなきに至つたが斯くては自治行政の執行上甚だ遺憾であるとてよ〳〵近く最後の町會を招集決定することゝなつたが新妻氏擁立派は半數以上を占めてゐるから結局新妻氏の當選を見るであらうと

鷄餌販賣斡旋 石城郡農會で

石城郡農會では養鷄事業獎勵のため明年度事業の中に養鷄飼育餌としこの三德碎貝殼、販賣斡旋をすることゝに決定しこれが準備中であつたが一初の準備が整つた爲いよ〳〵去る二十日から販賣斡旋を開始し各町村團体、その旨通知を發したが三德貝殼、價格は普通十五貫目入一俵一圓各種團体養鷄組合に對して一俵八十五錢であると

郡農會で 貝殼檢査 販賣も斡旋

石城郡農會でも養鷄家の必需品であり又石城の名產たる二德貝殼の販路を一層擴張するため來る四月一日から販賣品檢查を實施し同時に販賣の斡旋することになつたが遠くは北海道九州又養鷄の本場名古屋地方を始め全國各府縣下から續々購入申込が來てゐる

豫算が無くては 思ふ仕事が出來ぬ 殆むご手持無沙汰の 神谷農試分場

農事試驗場石城分場は創立以來既に五周年を迎へたが分場としての內部の充分な試驗設備が出來て居ない爲飼場として必要な試驗成績發表と云ふ樣な事が往々等閑に附され勝ちなため分場不必要の聲さへ叫ばれてゐる、これがため同場としても農家の期待に添ふべく毎年事業豫算編成に際しては內容的充實費を計上してゐるが何時も縣に於て削除され從つて各種事業等は極めて微々たるもので明年度事業豫算は昨報の如く僅々七千餘圓然もその內容は前年からの一部繼續試驗の外新しい事業としては優良蔬菜の採種農家の庭園樹と云ふが如きもので一つも分場の意志農家の期待に添ふ如きものがない

讀者欄

低級な藝術

默太郎

現代日本には、文藝的小作が現れない所謂洛陽の紙價を貴からしめる底の大創作が現れない。一切の社會が目前の利害のみに狂奔し今日主義のみに終始せし[illegible]これが又無理な注文かも知れぬが藝術のため生活のための時代粧ひのため、與へ[illegible]かざるをえない。

社會相は餘りに機械的になりつゝある。藝術の存在、藝術の普及は、この機械的なりつゝある人間生活[illegible]。

忙しい社會人にはこの高級なる、超世相級藝術を受入れるべく、餘りに欲求心が薄い。又餘りに忍耐力がない。小面倒くさい眞理が葬られ眞面目過度の藝術は相手なきはいつの時代でも同じ事だが、池田林傷君の「優生運動」が發行難になるや小山內薰君死後の築地小劇場に早くも衰運の兆し[illegible]なんぞはたしかに社會の罪だ

何事にも大衆ものゝ時代、何事もた手輕主義の映畫時代、理想や純理論に立脚する、創造のうけないのは分りきつた事だが芝居は相變らず劍劇もの、小說めくものは、依然として國定忠治、清水の次郎長、水戸黄門記、近藤勇、天保水滸傳、彰義隊、赤穗義士といつたやうなものこれぢや何としてもうんざりせざるをえない。讀者の又不思議にあるを默つて讀んだり觀たりしてゐるから甘いもんだ

ある方面では文壇人の生活難をいふが決してそれ程彼等は生活に困つてゐない、この裕りある生活圏內から著者や出版業者に佞するから世話はない本統の藝術なるものなくあのまやかしものの跳梁は當然の事だ。

第一文壇には、嚴密なる監視人に正しい深刻なる大批評家がをらぬ駄作や惡作に對してどし〳〵痛烈な酷評を加へて活きものと殺すものを端的に區別する人がをらぬ。藥術の低劣さ作家の不眞面目はこれも原因するであらうたまし〳〵批評家なるものはあれどその人物が餘りに小さい、又餘りに衛園が狹く、而してその大半が八百長だからたまげる卿ち著者とさうして作家とさうし、出版業者とさうして新聞社の廣告係りとさうして純なうぶな讀者を欺瞞するのだからおどろき入る

横領の控訴 次回は來月二日

磐城銀行四倉出張所主任石城郡大浦村片寄淸義(三六)が三年餘百數十回にわたり行金四萬五千餘圓を横領平區裁判所で懲役一年六月を言渡され福島地方裁判所に控訴中の業務上横領事件公判は來月二日開廷

豊間小學增築

石城郡豊間村小學校は腐朽狹隘を告ぐるに至つたので四年度において工費二萬圓を以て增築することゝなつた

明日の吉凶

舊曆一月十四日　新曆二月二十三日

▲一白　心は頻にあせれども物事思ふ樣に運ばぬ日▲二黑　引立てに逢ふて立身出世すべき幸運日たり▲三碧　身を守ること貞實なるときは無事たるべし▲四綠　運氣は至つて盛んなる日なれども失費も多し▲五黃　親することゝあるも屈せざれど自然の道開く▲六白　樣々の屈曲ありて岐道に踏迷ひ易き凶日▲七赤　行く先き進む先きに故障の生じ易き注意日▲八白　驕り怠りを戒め家業をはげむときは發展あり▲九紫　安心の樣に見へても急變を生ずることあり

講談 幕末秘帖 狂怒亂心 (166)

渡邊默禪作　宮野歌春畫

雨宮が誤られたやうに梅も又た虛報に誤られた、同じ心の同じなげき、同じ目的で此の谷へ來た、と味方の遺棄した武器か所持品でもあさらうとしたのであらう、二人の官兵がうろついてゐるのにはたと出會したのである。忽ちにして衝突戰、餘勇を鼓して二人を斬伏せたところへ、想ひがけぬ骨拾ひの相棒が現れたのである。こんなことを互ひに話し合つてゐる中に梅の顏色が次第に變つて來た。きゅ〳〵と齒咬をして苦痛をこらへてゐるかのやう、聽てうんと呻かつて身悶えする。

「おい、兄貴、ど、どうした、コレ兄貴ッ」

雨宮は駭いて扶け起すと

「き、疵だツ、次郎吉、水を呉れ、水をツ」

と苦しさう。

「ねッ、手創があるのか、そんならそうと言へば可いのに、我慢强ね人だなア、待て〳〵今見てやるッ」

溪間の流れを塗椀——當時の戰爭では必ず一個の塗椀を綱袋に入れて携帶してゐた、今の水筒の樣に——に汲んで來てきつけを服ませて介抱しつゝ、うちみを檢めて見ると、左の腕に二個所腰に一個所の重輕傷がある。だがいづれも致命傷ではない。

「兄貴、こりやア不可ねね打藥つといた日にやア大事になる、エ！ト惡しねいな俺の家は此處から三里たアありやしねえ百姓家で山の窟だから敵に氣取られる心配は無しよ、山越しに秩父の方へ落ちようと思へば何時でも行かれるといふ調法な所だから、是から一緒に行つて呉れ、まア半月や一月落着いてゆつくりと療治をしてそれから江戸へ出るやうに……なア兄貴、そうして呉れ」

「有難ねがそうしちやアゐられねえ」

と梅は首を掉つた

「勇の大將始め、同勢のみかたが四散八落になつたてねのに、私一人居殘つて[illegible]く〳〵と遊んでゐられた義理ぢやアねい、死ぬまでも跡を追蒐けていかなくちやア」

「可いッてことよ、追蒐けるにしても此の深手ぢやア一町と歩かれるものぢやねえ、さア肩へ捉まんな、肩へ……まア、何でもいゝから、俺に任せとけ」

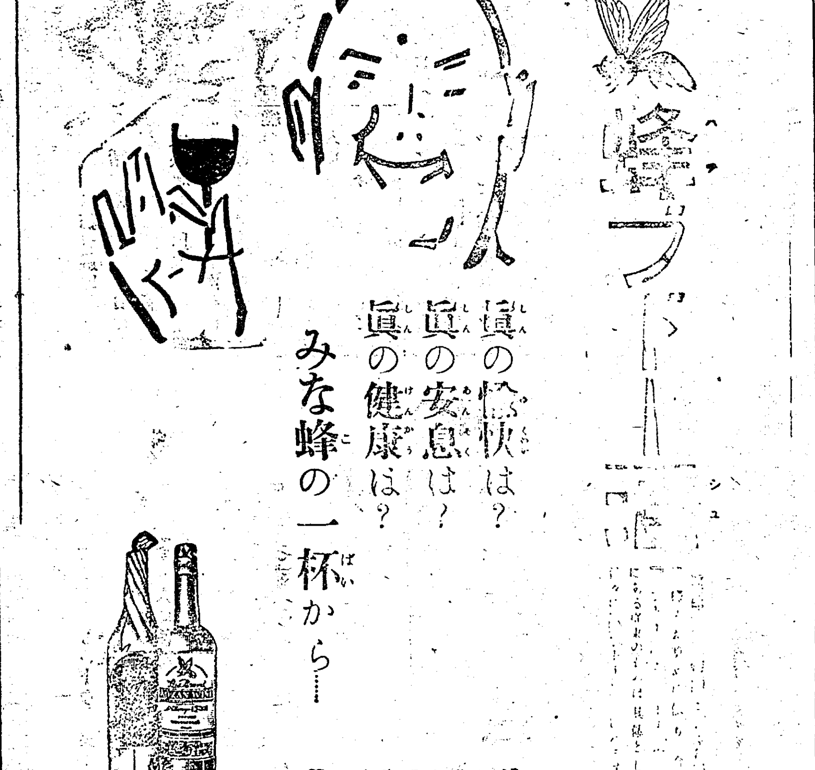
雨宮は强ひて梅に承諾させた幾んど負ふやうにして谷から谷へ拔け、日川村の吾家へ伴ひ歸つたのは恰かも其の夜のたいめい頃である。梅は遂にかくまひ人となつた。なんどの間を病室にして大きな聲も立てられぬ籠の禽、側では雨宮が親切に看護をしてゐる。

雨宮家は甲州山梨郡字牛奧といふ天目山下の一孤村で戶數は僅かに百八十、代々村名主を勤めた家柄であつた。兄と六十許になる母があるので家事は其の方に委せ自分は專ら商法に身を入れて蠶の種紙を仕入れては横濱へ持つて行つて外國を相手の貿易商人に賣込み又は眞綿、煙草、唐糸、乾柿などを江戸へ持出して賣捌き、江戸からは鰹、古着を買入れて國へ供給するなど種々なことをしてゐたが家の生活は餘り有福ではないので、商ひの片手間には兄の手助をして田の草取にも出る、麥打もやる、柴刈も爲るといふ樣に雄志を貫きたい一心からせゝと奮闘してゐる時代であつた

廣告

上田醫院　平町南町　電話一七〇番

赤心堂病院　平町田町　電話四七五番



毛糸
防寒用には　丈夫で暖い　英國製毛糸
一オンス　十九錢　二十五錢
手藝材料　ハシモトヤ糸店　平町田町

內科　小兒科　其他一般(入院隨時)
前田醫院
植田町本町(電話一二四番)
前田淸美
(看護婦見習優遇募集)

三益玉炭のお奬め
三井物產會社ガ多年ノ研究ノ結果專賣特許ヲ得タ最モ文化的ノ木炭代用ノ高級燃料デス
□無煙無臭デ、火付ガ早ク火持チ良ク、火力ガ强ク日常ノにやきニハコンナ便利ナ品ハアリマセン
□ソレデ値段ハ大變お安ク木炭ノ三分ノ一デ充分間ニ合ヒマス
□ドンナニ喰はずきらいノ人でも一度使ヘバ必ズ御氣ニ召スノガ此ノ玉炭ノ特長デス
値段ハ壹箱金貳圓
個數ハ約八百個內外
御申越次第見本ヲ持參シテ御覽ニ供シマスカラ御申越下サイ
平驛前　阿部石炭商店　電話二三七番

內科、小兒科　花柳病科　入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町　電話平局五〇七番

自慢の御菓子
經濟と實用を兼ねた一等品としての自信を誇る弊社製のお菓子は
御家庭用に！　御進物用に！
特製品
▽尼子殿中　▽時雨の松
▽龍燈あられ　▽平の櫻
▽名物尼子豆　▽菊の友
▽磯の花　▽コマロンケーキ
▽塩せんべい　▽パン粉各種
市內各菓子店で發賣
是非御愛用を願上ます
平製菓株式會社　電話三六〇番

磐城病院改稱
市原病院
平町田町(電話一一四番)
內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋毒　市原三三男

けふ山本屋旅館に 青沼派の協議會
少くとも廿名以上で 勝算の見込確實

平町長後任問題は伏見現町長が前言を取消し青沼氏を向ふに一大決戰をも辭せざる意中を洩らすに至つて勢ひ付いた伏見氏再選派の町議連は戸別訪問的運動を開始し一方之れを聞いて驚愕した青沼氏擁立派たる中立組は

純政友系 と見るべき井上茂作氏等の十三名に根強き共闘の交渉を進め玆に一大決戰の火蓋を切つた旨本紙昨報の如くであるが井上氏等の十三名と中立組十四は今二十二日午後三時より三丁目山本屋旅館に協議會を開き飽くまで結束を堅くして明廿三日の改選町會に臨み堂々

決戰投票 を行ひ絶對多數を以て青沼氏を擁立する最後の打合せをなす處あつたが飽くまで伏見氏再選を固持する議員は現在の所野崎滿藏、荻原義雄、吉田五平、佐藤岩次郎（民政系）阿部太中、櫻井清阿部唯次郎（中立）星野清吉（政友）以上八名を超さざるもの觀測で青沼派は爾後同志の結束を堅め少くとも二十人以上の多數を以て勝利を得る確信らしく、今夜一晩中に伏見派の

秘策がど の程度まで奏効するかは注目に値するが目下の狀勢を以てしては青沼氏の勢力に及ばざること遠いものゝ様に觀測されてゐる

伏見氏への 慰勞金減額
精々千五百圓

青沼氏擁立派の議員の意嚮は當初より何等伏見氏に缺點なく僅か一期にして退かしむるは情に於て忍びざるものあり故に伏見氏の爲め出來得る限り最大の慰藉方法を講じ少くも三千圓乃至五千圓位の退職慰勞金を贈るべきであると云ふ意見一致し何等異存を唱ふるもの無かつたが青沼氏と競爭してまでも現職に戀々たるものでないとの當初の聲明に叛し今にして戰ひを挑むは中和を攪亂するもので其の言動信ずべからずとなし慰勞金の如きも一千五百圓位に止めて然る可しとの硬論者も出で今二十二日山本屋の協議會席上此の論が可成り共鳴された模樣である

搔つ拂ひ男
平署に御用

平地方に昨今コソ泥が橫行し各方面に相當の被害を見てゐるので平署では極力檢擧に努めて來たが去る二十日午後十時ころ平町間橋町の某鍛冶店から三十才前後の男商品を搔さらつて逃走せんとしたのを警邏中の平署員に逮捕され目下取調中であるが今後は一層警戒を嚴重にして鼠賊の撲滅を計ることゝなつた

高等課長は兎も角 今四五ケ月は 平に居たい
確實性が顏に讀める
猪狩平署長榮轉說

本縣下警察署長の大異動は來る二十六、七日頃發表されるものゝ如くであるが此の移動に當り猪狩平署長が高等課長に拔擢されるやの說が然かも單なる風說でなく稍々確實性を帶びてゐるものゝ如くである、中村警察署長より平署長に榮轉した猪狩氏が更らに高等課長への拔擢は本縣警察界稀れに見る好運兒で「若し器質すれば」の感想を叩けば

滿更らでもない表情を滿面に浮べ乍ら

新聞辭令では既に去年の春高等課長になつた筈の僕だから餘りあてにして安つぽく喜ぶ譯には行かない、平に來て一年七ケ月高等課長は兎も角何の道動かされるにしても今四五ケ月平にゐたい、と云ふのは平署も元郡役所跡に移轉し、居乍らにして新川の櫻を賞し花見酒の一盞もやつてからならよいが辭令一本で決る運命だからね……と

高等課長への榮轉は過日中村警察部長の來平によつて略內意を得た物の如く今や動かす可ざる事實の樣に觀られてゐる（寫眞は猪狩署長）

酒店に鼠賊
平署に捕はる

石城郡好間村中好間居住野地勘藏（六二）は去る二十日午前二時頃平町長橋町小野醬油釀造店方に忍び入り物品を竊取逃走せんとした處を平署員に取押へられ取調中

始めて店を持つ人へ
西村屋若主人 鈴木邦三郎氏談

獨立して商賣を始める場合先づ第一に考へなければならぬ大切な問題がそこにあります、其第一條件として資本の充實といふ事であります

資本 金を充實せしめる爲め、時には借金政策もわるくありませんが、しかし金を借入するにして、利息の出る金はさけなければなりません、金利の出ない金、若何うしても金利を出さねばならないでしてもその金利は最少限即ち少額である事、少くも日歩三錢以上の金利の金は絕對によろしくありません、金利の高い金を資本金にあてる事は、一面それだけ

商品 をぼる事になり、結局不合理な結果に終つて失敗の因をなすものであります、第二の條件としては販賣上の優越權を持ち得るや否や、云ひ換れば持ち得るものである事です、例へば風呂屋とか煙草屋の如きものは政府の命令により制限されてゐる許可營業でありますがかうした性質のものでない營業は自由である爲めに或一軒の店が繁昌すると勢ひそれをよして眞似るものが多く出て

同業 者が多くなり結局商賣上の競爭が激烈となつてゆくといふ現象を呈してゆきますがこれは考へものであります、それ故他の追從を許さぬ特死のもので同時に大衆的にたいて質價格、形、色彩等價値あるものでなければなりません、そして他の倣を許さぬのある事、即ち一口に云へば營業種目の選擇といふ事になりますし、同時に常に絕えず販賣し得るや即ち

販賣 率を增進し得るものや否やといふ事も研究しなければなりません、第三には營業場所の選擇といふ事でありますが、最近地上權とか借家權の暴騰から多くの人はさうした權利金のない處、あつても安い處を探すが商賣には第一に大衆の眼につき易い人々の往來する交通上の便宜のよい處を主眼として選定しなければなりません、第四には

利益 上の採算に就いて注意すべき事でその爲に第一に注意しなければならないのはデッドストック（死藏品）を持たぬ事ですそして薄利でも回轉率の早いもので經費のあまりかゝらぬもの、即ち無駄な費用の出ぬ、節約出來得るものでなければなりません第五には不當思惑に陷らぬ事であります、例へば景氣不景氣から

物價 の高低が甚だしくなる場合その時の相場を見越してやる商賣がありますがこの場合現在は安いが將來について高くなると云ふ事に乘つてやる事はねて失敗に陷るものであります、殊に長期の思惑は危險であります即ち商賣をするには相場を見る事は必要ですがそれに乘らない事であります處が意志の弱い人は往々これにひつかゝるのであります、以上は

一般 的の場合にたいて誰もが注意してほしい事柄でありますが、今度は其範圍を縮めて婦人が獨立して商賣を始める場合に就いて考へてみたいと思ひます。

平署が募集した 火防宣傳文藝
大人も及ばぬ傑作揃ひ
審査の結果發表

平警察署では去月二十八日の火防宣傳デーに際し管內各小學校兒童に「火防宣傳文藝」を募集中であつたが圖畫七十二點綴方十六點標語二百二十八句と云ふ素破らしい成績を見たが去二十日の消防組頭會に之が審査方法を提案し昨廿一日午前十時から平署樓上に同署平田次席警部補、特高橋谷田部長、井上平消防組頭、佐藤鹿島組頭、木村神谷組頭の審査委員、猪狩平署長の委員長のもとに嚴密なる審査をなし採點したが作品の中には大人も及ばぬ傑作に係官をして驚嘆さすのもあり標語では「この位でよからうか火事の元」が第一位で童謠が特等に推選されたが次は當選作品である

▲特等（童謠）　好間尋常高等小學校尋五　佐伯正德

（一）さびしいよなかにかねがなる　こはい音だすあの音は　お父さんや兄さんが一生けんめいではたらいてつくつた家をやける　こはい音ですあの音は

（二）風の吹よに　かねがなる　いやな音です　あの音は　お母さんや姉さんが毎日〳〵働いてぬつたきものもゑる音　いやな音です　あの音は

（三）火事はいやですこはいものみんなで火事のないやうに火の用心を致しませう

▲一等（圖畫）　小名濱校高一　作山繁

▲二等　平第一校高一　助川登　湯本校尋五　高橋芳雄

▲三等　好間校高二　岩位眞美　平第一校尋五　大垣退衛　豐間校高一　鈴木正秀

▲四等　豐間校高一　秋山豐　湯本校高一　佐藤惣次　飯野校尋六　江尻一司　平第一校高二　松本政雄　小川校尋六　草野知代子

▲五等　七名以下略

試驗題は平易に
父兄は强ひてはならぬ
唐土磐中校長談

縣立磐城中學校の本年度募集人員は第一學年二百五十名第二學年補缺若干名で今年は未だ申込はないが願書提出期日の三月十日までには募集人員の二倍以上約六百名位志望者があるものと豫想されてゐる、同校は石城郡のみでなく双葉郡隣縣茨城縣方面からも志望者がくるので受驗の者多い事は縣下中等學校中隨一でそれだけに考查地獄になやまされる可憐な兒童も多い譯である。

考查の方法は前年と大差はなく口問口答、口問筆答の二つであるが、問題は難解なものでないし小學校で習つたものを基準として常識的なものであるから落ちついてさへ居れば樂に出來る問題ばかりである

と唐土校長は語つて居たが同校では石城郡內各小學校に對して入學志願者心得を記した印刷物を配布し曩に平第一校に開かれた小學校長會の際には學校としての希望並に受驗者の希望とについて種々懇談をなし受驗兒童のなやみを幾分でも減少させる樣に盡力しつゝあるが、學校として受驗兒童の家庭への希望を左の如く述べてゐる

試驗は兒童に大きな恐怖を與へるものだ、之は競爭者が多いのと、優劣を期せずして區別される結果になるので其處に責任感が生れその責任感が兒童の小さな胸には恐怖と變るので百人が百人共試驗場に入るとかたくなつてしまつて日頃なら樂に考へられる事がなか〳〵口から出てこない事になるので小學校の先生や兒童の家庭ではどうしても及第せねばならないと云ふ事を兒童にしひず同時に受驗に對する恐怖心を除き去る樣に兒童に敎へる必要があると思ふ

かみくず

◈ニュースの放送を致します、第一は猫が鼠取りを買つた話、舊曆初市の日の出來事、これは久本の清奴嬢が金壺眼をして鼠取りの金網籠と飴の一袋とを兩手にブラ下げてアノ人込みの中を縫つて步いたのは不思議でもナンでもないが、知つてる人に遇ふと言ふことが振つてる◈アタイ猫なんだけれど、家に鼠が出て困るのよ、だとサ、オイ頭の黑い白鼠は金網籠では取れないよ◈そして飴は情人にシャブらせるのかと聞いたらナアニ糞づまりになつてヒケツしてるから私が嘗めるのだとは、ナンダ色消しな

是非とも保ちたい 新川堤の櫻木
工事に按配考量を加へ
南町有志連奔走

松ヶ岡公園の如き美觀と相俟つて櫻の平町を價値づける新川端の櫻は平町飯野內郷一町二ケ村水害豫防組合の計劃に係る新川の改修工事により今年度において行はるゝ月見橋以南尼子橋方面に向つて四十間の河川敷擴げを皮切りとして逐年折角の美觀が根こそぎ撤去さるゝ事となるので平町にたげる風致の破壞を遺憾とする人々から少からず計劃の無風流なるをとがめられてゐた、右は設計の變更により護岸のコンクリート工事に適當の按配考量を加ふる時は工費を輕減すると同時に櫻の命脈を完全に保つ事が出來るといふ斷案を得たので地元の南町が卒先して保存に努むべく工事仕樣設計の變更運動その他に就いて寄り〳〵策動が開始されたので一時絕望と見られた新川端風致維持の問題は近々中最も有利に展開し三春行樂の地方人士をして永久に鑑賞せしめ得る事になるであらうと觀られてゐる

本年度豫算と 町長改選の町會
愈々廿三日開會

平町では明二十三日午前十時より町會を召集し昭和四年度歲入出豫算並に決算承認の件及び町長選擧の件を附議することゝなつたが町長改選は可成りの注目を惹いてゐるから例によつて傍聽者も多く大混雜を豫想されてゐる

四倉町の 新道竣工
盛大な落成式

石城郡四倉町字仲町中央縱斷道路即ち仲須賀道路は去る大正十五年より計畫し其後工事中であつたが此程竣工其筋の檢查も終了したので陰曆正月八日の公休日を利用し去る十七日之が落成式を午後一時から同町劇場海盛座に於て擧行したが來賓及び關係者着席發起人を代表して中野捨與氏挨拶を述べ菅澤助役工事報告をなし二三來賓の祝辭演說あつて式を閉ぢ之より祝賀會に移り同町二十餘名の藝妓連派手やかな裝ひで酒間を斡旋し何れも十二分の歡を盡して午後四時散會した

中島家不幸
令弟二人が長逝

平町田町中島寫眞舘主中島孟氏令弟工學士中島廣胖氏は病氣加療中の處十二日永眠したが更らに末弟良廣氏は突然腹膜炎に腦症を併發し一日隔てた十四日逝去したが二十五日午後一時より二時まで自宅に於て告別式を執行すると

松ヶ岡の梅を誘ふ 平地方日每の暖さ
彼岸もあと廿日に迫り
小名濱測候所觀測

平町地方は尚ほ可成り寒い日がつゞく、暑い寒いも彼岸まで……と云ふが春の彼岸もあと二十日そこ〳〵に切迫した、小名濱測候所の語るところに依れば去年冬から今年の正月に掛けて珍らしくも春のやうな暖かさが續き松ヶ岡公園の裏手の梅枝には季節はづれたほどツボミをふくらまし二月に入つてからはめつきり寒さ來に梅、節をくるわしたが玆五、六日も立つたら全く春らしい暖さが來るであらうと思はれる」云々

ホシシクロの特賣
花柳病の豫防藥
バイドク、サウドク、リンドクを良く殺虫致します
注意　然し子供の欲する人は使用していけません
定價　五拾錢　壹圓　貳圓
平町三丁目
星製藥磐城配給所

高級貸切車
開店披露
自動車御用ハ
電話三四三番（サシミ）
平驛前
昭和タクシー
澤　正路

內臟外科
骨關節外科　專門　藤本順
整形外科
產科
婦人科　院長　木村寅次郎
外科　婦人科
平町新川町
木村醫院
電話一六四番

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同　優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋　**山崎合名會社**
電話一〇番

令弟工學士中島正廣胖事永々病氣ノ處本月十二死去並ニ末弟良廣儀突然腹膜炎ニ腦症併發仝月十四日死去致シ候間畧儀以紙上御通知申上候
追テ來ル廿五日午後一時ヨリ二時迄ノ間自宅ニ於テ告別式執行可致候
而亡母昨年假葬ノ處併セテ本葬相營ミ候ニ付申添候
昭和四年二月廿二日
兄　中島孟
外親戚一同